

平成23年度

第5次鯖江市総合計画推進にかかる施策方針

～産業環境部～

第5次鯖江市総合計画の着実な推進を目的として、今年度における産業環境部の基本方針および重点的に取り組む項目を次のとおり定め、着実に推進します。

平成23年5月10日

産業環境部長 辻 本 正

基本方針

- 1 鯖江商工会議所、鯖江市ものづくり支援機構と協調し、新製品・新技術開発や異分野・異業種への進出を重点的に支援し、新しいものづくりやサービスの創出に努めます。また、市内企業への訪問活動に精力的に取り組み、支援メニューの周知や情報の共有を図ることで、現場ニーズに即した企業支援を行います。さらに、デザイン力・マーケティング力の強化に努めることで、「作るだけの産地」から「作って売る産地」への転換を図り、活気あるものづくりのまち鯖江を目指します。
- 2 鯖江ブランド情報として、鯖江市のものづくり技術や企業・製品・産業観光等に関する情報を、さまざまな手段、機会を通じて積極的に発信します。
子どもたちが、地域の産業について実際に見て・聞いて・触れる機会を充実することにより、地域産業に対する理解を深め、誇りを持つことで、将来の後継者につながる産業教育を促進します。
- 3 中心市街地の活性化に向けて、商工会議所、地元住民、学生、商店街などと連携・協働して、「鯖江街なか賑わいプラン」事業の推進により、個性と特徴のあるまちづくりに努めます。
さらに、街なかにおける学生、若者の活動拠点「らてんぼ」を中心に、若者の感性や知恵、行動力を市政に活かしたまちづくりに取り組みます。
- 4 事業所におけるワーク・ライフ・バランスの推進を強化し、働きやすい職場づくりを促進します。
企業の活性化や企業誘致を促進することにより、働く場所を創り、地域の原動力となる労働者の定住を図ります。また、若者の就業への意識向上に努めるとともに、より実戦的な取り組みでの就業率向上を目指します。
- 5 利用者にも環境にもやさしいつつじバスを、市民の足としてさらに利用促進を図ります。福井鉄道福武線についても、地域の大切な公共交通機関として沿線市と連携し、さまざまな利用促進策を展開し、利用客の増加に取り組みます。
- 6 日野川の水の恵みに育まれた本市の農産物の特性を活かし、基幹作物の米を中心に、鯖江特産の夢てまり(マルセイユメロン)、ブロッコリー、ミディトマト、さばえ菜花や鯖江の伝統野菜である吉川ナスなど特色ある農産物の振興や森林資源を用いた林産品の創出を図り、農林業が商いとして成り立つ産業としての定着化を進め、地産地消はもとより地域ブランドとして発信します。

- 7 減農薬、減化学肥料など環境にやさしいエコ農業を進めることで、消費者ニーズにあった安全安心な農産物の生産に努めます。また、子供たちが食について自ら考える習慣を身に付け、地域で生産したものは地域で消費する精神や自然の恵みに感謝の心を育む食育を推進します。
- 8 担い手農業者となる認定農業者、集落営農組織、農業生産法人の育成と新規就農や退職者等の帰農による農業者の確保および農地の面的集積と農業経営の改善による農業者の経営基盤の強化を促進し、持続できる地域農業の確立と振興に努めます。
- 9 「農地・水・環境保全向上対策」に加え、新たに「農地・水保全管理支払」を活用し、ストックマネジメントの手法による農業用施設等の適正な維持管理と長寿命化の推進により、快適で災害に強い農村環境づくりに努めます。
- 10 森林資源の重要性を認識し森林整備を推進するとともに、市民の森林保全意識の高揚を図り、森林の保全・保護と健全な森づくりに努めます。
山ざわ農地の保全および農産物の被害防止、地域住民の安全安心の確保のために鳥獣害の被害防止に努めます。
- 11 鯖江の地域資源を活かした鯖江ならではの加工品づくりなど6次産業への転換による新たな地域ブランドの定着を図ることで、農商工連携の積極的な推進に取り組みます。
- 12 人と生き物の共生をめざす地域づくりと人づくりを進めるため、市と地域住民、環境団体等の連携・協働による環境保全活動や自然環境調査を通して、自然に対する興味を喚起し、環境美化意識の向上と地域コミュニティの回復を図るとともに、生物多様性の保全に取り組む地域活動の活性化を図ります。
- 13 市民・事業者・行政(市)などが緊密に連携・協働し、あらゆる主体が一丸となって温暖化対策に取り組むための仕組みを構築し、本市における地球温暖化防止対策の積極的な推進を図ります。
- 14 将来の世代に、良好な環境や快適な暮らしをつないでいくため、1人1日当たりのごみ排出量の低減を図るとともに、可能な限り循環資源として利用することで、天然資源の消費を抑制し、環境負荷が少ない循環型社会を目指します。
- 15 幼児から高齢者までのすべての世代において、地域から地球規模までの環境問題についての関心・理解・知識を深め、行動につなげていただくため、環境教育支援センターを拠点とした環境学習を、引き続き積極的に推進します。

重点的に取り組む項目と具体的な目標

■ 「作るだけの産地」から「作って売る産地」への転換

いち早い経済不況からの脱却を目指し、業界・企業の新製品および新技術の開発、海外販路開拓、異分野進出、自社ブランド育成等による産業の高度化、新分野への進出および起業家の創業を支援します。また、企業間や大学等の研究機関との連携や企業の人材育成等を推進します。また、デザイン力・マーケティング力の向上に努めることで「作るだけの産地」から「作って売る産地」への転換を図り、活気あるものづくりのまち鯖江を目指します。さらに、福井県、金融機関、宅建業界等と連携して工場適地情報および企業の設備投資情報の収集に努めます。

新製品・新技術開発事業および新事業創出・業種転換事業実績件数	10件 (累計数52件)
デザイン力・マーケティング力向上のためのセミナー等の開催	10回
企業訪問活動(景況把握、支援制度啓発、設備投資情報収集、要望聴取)	70社
企業等への支援制度の情報発信(広報)	3回
ものづくり支援機構との調整会議の開催	3回

■ 地場産業後継者育成応援事業

鯖江市の地場産業(眼鏡・繊維・漆器)を後世に伝承・発展させ、産地が培った高度な職人技を地域に残し、地域産業の振興に資するため、地場産業への就職希望者に対して、産地企業において働きながら熟練技の継承の機会を提供し、円滑な就業を促進し後継者の育成を図ります。

眼鏡・繊維・漆器の各企業における後継者育成事業取組社数	19社
-----------------------------	-----

■ 鯖江ブランドの情報発信

鯖江市の地場産業(眼鏡・繊維・漆器)に関する企業・製品・産業観光等の各種情報を、ホームページなどの媒体や展示会、イベント等の機会をとおり鯖江ブランドとして全国的に情報発信します。また、各産業観光拠点施設との連携やイベント等を活用し、子どもたちが地域の産業技術力や歴史を実際に見て・聞いて・触れる機会を創出し後継者育成に繋げることで、鯖江の地場産業の活性化を図ります。さらに、地域の宝である地場産業をはじめ自然や歴史・伝統・文化なども鯖江ブランド(観光資源)として捉え、情報発信と誘客に努めます。

ホームページによる情報発信	24回
展示会等を活用した情報発信	2回
イベントを活用した情報発信・体験機会の提供	2回
眼鏡・繊維・漆器の企業体験実習、講座の実施(丹南高校での授業)	2回
FMふくいによる産業観光情報発信	10回
観光客入込数	120万人

■ 鯖江街なか賑わいプランと学生連携事業の推進

商店街の活性化や観光の振興など、中心市街地の活性化に向けて、商工会議所、地元住民、学生、商店街などと連携・協働して「鯖江街なか賑わいプラン」事業を推進することで、個性と特徴のあるまちづくりに努めます。

「らてんぼ」を拠点とし、若者の感性やニーズなどを活用して、商店街の活性化やものづくりの活動に積極的に取り組めるよう支援します。併せて、学生、商店街、市民などとの交流の場として様々な活用が図られるようPRに努めます。

賑わいプラン41事業の実施率	80%
賑わいプランの数値目標設定33事業について、達成率	80%
「らてんぼ」来店者数	7,500人
「らてんぼ」を活動拠点とした企画事業の開催	5件

■ ワーク・ライフ・バランスの推進

仕事と生活の調和を図るワーク・ライフ・バランスの推進により、仕事と家庭が両立できる働きやすい環境づくりの促進に努めます。

育児休業代替要員確保支援事業採択件数	5社
広報紙等による啓発活動	3回
ワーク・ライフ・バランスの計画の新規策定事業所数	5社

■ 就業率向上対策の推進

「団塊の世代人材バンク」を活用して、団塊の世代への就業機会の提供と市内企業の振興に努めます。また、若者就職カウンセリング事業を実施し、若者の就業への意識向上に努めます。さらに、求職中の若者や団塊の世代に対する就業チャレンジ支援として、講習会等を開催する就職サポート事業を実施し、就業率向上を目指します。

団塊の世代人材バンクの活用		
・登録者数		100人
・登録企業数		50社
若者就職カウンセリング事業の実施		
・開催数および参加者数	25回	150人
就職応援セミナーの実施		
・開催数および参加者数	3回	120人
広報紙等でのPR		10回

■ 公共交通機関の利用促進

「乗ろう、守ろう、みんなのつつじバス」を合言葉に、つつじバスの利用促進のための利用者アンケート調査を実施するとともに、家族あいのりの旅事業などを通して高齢者や家族に乗り運動や啓発活動を展開し、より一層の利用促進に努めます。また、更なる利便性向上を目指し、運行体系の見直しを行います。

福武線の利用促進を目指し、福井鉄道福武線利用促進鯖江市民会議と沿線市と沿線住民で構成する福井鉄道福武線サポート団体等協議会が連携・協働して利用促進の運動に努めます。

年間利用者数目標	20万人
利用者に対するアンケート調査	2回
(仮)歴史の道線の増設等、運行体系の見直し	平成23年12月までに
鯖江市内駅の利用者目標	45万人
野外活動等支援事業の利用者数	3,300人

■ 農産物の生産振興の促進

消費者のニーズに応え、良品質で安全安心な農産物を安定的に供給できる産地づくりや地域にあった少量多品目野菜の提供を目指して、生産者と消費者との連携強化のシステム作りや新たな商品づくりおよび地域ブランド化を目指して取り組みます。また、将来の農産物自由化の国際化競争に打ち勝つ基盤づくりに努めます。

ブロッコリー・マルセイユメロン・ミディトマトの出荷量	平成22年産出荷量の2%UP
カントリーエレベーターの食味値の平均値	80点
菜花を播種し不耕作水田の景観等による利活用を図った面積	10ha

■ エコ農業と食育・地産地消の推進

消費者ニーズにあった安全安心で地元産の農産物の消費拡大を図り、地域経済循環を推進するため、市民に広くPRを実施するとともに、生産者と消費者の交流を通じ、「食」を通じた農業・農村への理解を図ります。

エコファーマーの認定数	100人
特別栽培の作付面積	80ha
食育イベントの開催 来場者数	食育フェア 1,400人
	ふるさとの日ふるさと料理を楽しむ会 250人
学校給食への地場産野菜提供100%イベントの開催(6月・11月)	
	小中学校15校、幼稚園7園 14,000人
学校給食への鯖江産農産物提供のための体制づくり	学校給食畑設置 4校
(平成23年度で全小学校で学校給食畑整備完了予定)	
提供応援体制の検討	

■ 地域農業の担い手育成と農村の活性化

農業者戸別所得補償と県・市の関連事業を通じた支援を活用し、農業者の経営安定を目指すとともに、認定農業者、農業生産組織等の育成と農地利用集積、新規就農と退職者等の帰農による多様な農業者の確保を促進し、地域農業の担い手づくりを推進します。

農業者戸別補償制度への加入促進	95%
新たに認定する認定農業者	3人
新たに法人化する農業生産法人	1組織
新規就農者	2人
農用地利用権設定	1% (20ha) 増加
担い手への農地利用集積の増加	40ha

■ 快適な農村環境づくりと災害に強い農地基盤の整備

「農地・水・環境保全向上対策」の更なる向上を目指すため、最終年度として活動の総仕上げとスムーズな運営を支援するとともに、地域協議会との連絡調整と活動団体の記録確認などを積極的に行います。また、新たな制度の「農地・水保全管理支払」への加入を促進し、農業用施設の長寿命化を図ります。宅地化により雨水排水を農業用排水路に接続するために発生する農地冠水による水稻被害や宅地への浸水を防止するため、災害に強い活力のある農村づくりを目指します。また、河川に設置された農業用施設の施設管理者に対して、適正な管理研修を行うことで災害発生を防止・抑制します。これらふるさとの農地等を保全するため、市と各土地改良区が連携強化し、土地改良長期計画の策定を行います。

協定を締結した活動団体50組織の維持と活動団体による先進事例の調査	50組織
農地・水・環境向上対策 研修会 1回 100人	直接指導 2回 200人
農地・水保全管理対策	加入率100%
施設管理研修会の開催	2回 150人
土地改良施設の保全業務	
(農道476路線145kmや農業用幹線排水路等のパトロールによる安全性の確保)	
土地改良長期計画	平成24年3月策定

■ 里山環境保全の推進

市民の憩いの場としての里山は、二酸化炭素の吸収、澄んだ空気の醸成や水源の涵養機能など様々な機能を有しており、里山の整備・保全を図ることは、地球温暖化対策面、生活環境や生態系保全の観点から、非常に重要な課題となっているため、市民・市民団体・事業者・行政が連携し、人と生きものが共生できる森づくりを進めることで、幅広い環境の保全に努めます。

適切な森林整備のための林道パトロール(6ヶ月間 5～10月)	38路線
森林施業のための作業道の整備	5km
広葉樹の植樹	2,000本

■ 鳥獣害被害対策の強化

鯖江市鳥獣害防止計画に基づき、個体数の調査、調整や侵入防止柵の整備などの被害防除対策、緩衝帯の設置などの生息環境管理の取り組みを総合的にを行います。

鳥獣害対策地区等学習会の開催	15回	150人
鳥獣害のないふるさとづくりマスタープラン	平成23年12月策定	
鳥獣害対策、被害状況の啓発	5回	
緩衝帯の設置約6km、電気柵設置約16km		
アライグマ捕獲従事者講習会の開催	2回	100人
鳥獣害対策リーダー育成支援の対象者 (県狩猟免許取得費用助成対象者)		30人

■ 農商工連携事業の推進と鯖江産農林産物を活用したブランドづくり

農業経営の改善や中小企業者の経営向上を目指し、1次、2次、3次の産業の壁を越えて有機的に連携し、相互にノウハウ・技術等を活かし、鯖江ならではの商品開発など6次産業への転換による新たな地域ブランドへの創出・定着を図るとともに、米、大麦、大豆や、さばえ菜花、マルセイユメロン、ブロッコリー、吉川ナス、ミディトマト等の鯖江産の農林産物の販路開拓、販売促進、ブランド化を推進します。

JA、商工会議所、森林組合等との連携を強化し農商工連携報告会の開催	1回
農・商・工の各業者間のマッチングによる新たな流通ルートの開拓	2ルート
農・商・工の各業者間の連携による新商品開発	3品
農と消費者を結びつけるツアーの開催	1回 20人
都会での特産品のPR	1回
マルセイユメロンフェア、イチゴフェアなど特産野菜等を普及する企画実施	2回
わが村自慢の一品の創出	2品
さばえ菜花安定供給のための体制づくり	1組織
吉川ナス、さばえ菜花などのブランド化を推進し商標登録を行う。	2品目
鯖江産野菜の地産地消を推進するさばえ菜花ネットワークの運営支援	
さばえ菜花米の作付け等ブランド米の研究	

■ グリーンツーリズムの推進

農を中心とした鯖江版地域交流トキワ荘プロジェクト(2011さばえファームリーグ)等の事業を通じ都市と農村の交流を促進し、休耕地の利活用を図ります。

県内のファミリーや若者たちによる、休耕地を活用した週末農業	20人
関西圏、東京圏からの誘客による農業体験	1回 20人
地場産業と連携したグリーンツーリズムの実施	1回 20人
農家と都市住民を結びつけるツアーの開催	1回 20人
市内を訪問した都会の団体への地場農産物の提供	2回 30人
都会でのプロジェクトPR	1回

■ 自然環境の保全

河川をはじめとする本市の豊かな自然とゲンジボタルやオシドリを中心とした動植物の生息環境を保全するため、市や地域住民、環境団体、事業者の連携・協力による環境美化活動や生物多様性保全活動を実施して、自然環境保全意識の高揚と地域における環境保全活動の活性化に努めます。

市内河川の清掃美化活動へのボランティア参加者数	8,000人
生物調査の箇所	2箇所
自然観察会への参加者数	100人

■ 地球温暖化防止対策の推進

鯖江市域全体のすべての活動に伴う温室効果ガスの排出抑制を図り、総合的かつ実行性の高い取り組みを推進するための計画を策定するとともに、家庭、事業所、学校等における省エネに向けた取組みや、再生可能エネルギーの活用などの地球温暖化防止活動を促進します。また、市が率先して温暖化対策に取り組むため、「鯖江市役所省エネルギー推進計画」と連動した「鯖江市役所地球温暖化対策実行計画」の策定などにより、市役所の事業活動に伴うエネルギーの低減、温室効果ガスの削減に努めます。

鯖江市地球温暖化対策地域推進計画策定に向けた環境審議会の開催	3回
グリーンカーテンによる省エネ活動取り組み事業所数	10事業所
住宅用太陽光発電設備設置補助件数	60件
鯖江市役所省エネ検討委員会の開催	3回

■ 1人1日当たりのごみ排出量の低減

ごみの減量・資源化に向けた一人ひとりができる身近な取り組みを広報、ホームページ、出前講座などで啓発し、循環型社会づくりに対する市民の意識高揚に努めます。

1人当たりのごみ排出量	970g以下
分別啓発による資源化率	22%
地区別出前講座等による啓発	20回

■ 環境学習の充実による環境市民育成の推進

環境教育支援センターを拠点に、地球温暖化防止やごみ減量化・資源化等の環境学習講座の開催。また、春の菜花や桜、夏のお清水(三場坂・桃源・榎)やホタル、秋のもみじや植樹、冬のオシドリやコハクチョウなど、四季折々の鯖江市の豊かな自然や植樹等による緑とのふれあい体験活動。さらには、環境フェアやこどもエコクラブ活動交流会等のイベントの開催により、様々な環境問題を自らの問題として捉え、自ら行動できる環境市民の育成を積極的に推進します。

環境教育支援センター来館者数	13,000人
環境学習講座参加者数	7,700人
環境さばえブランドツアー参加者数	50人
環境フェア来場者数	1,500人